

使用するコード (最低限必要な若干のコード理論)

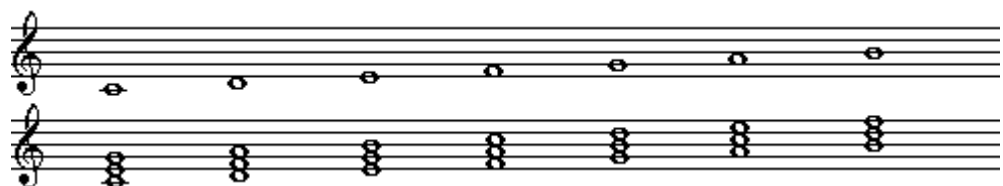
コードの基本は、ルート音（根音）とそれに重ねる3度の音が長3度か短3度によってメジャーコードかマイナーコードであるかが決定されます。それだけは覚えておきましょう。通常、その2つの音に5度音程の音を重ねた音の組み合わせが和音（コード）となります。メジャーかマイナーかが決定されればそれにいろいろな音を積み重ねることによってコードの微妙な色彩が色付けされていくのですが、例えばジャズの場合はその色彩をデザインすることにより、複雑なテンションコードとなります。いずれにせよ、ルート音と3度音の組み合わせが最重要でありコードの性質を決定するカギとなります。本法における最大の特徴は、ダイアトニックコード※1) (diatonic chords) と非ダイアトニックコード (non-diatonic chords) をいかに感受し使いこなせるかということに大きなポイントを置いています。

すべてをC調（ハ長調）とAm調（イ短調）というおもには白鍵盤（幹音）で構成される調に統一していますので、他の調に移調する時にはそれぞれ平行移動して使用できるようにトレーニングしておきましょう。＃や♭の黒鍵盤（派生音）は non-diatonic chords、ブルーススケール、クリシェライン※2) などの使用の際に登場します。本法では技法の簡便性を考慮し、和声的短音階 diatonic chords の一部と旋律的短音階的アプローチは、割愛しました。また、主和音・トニック（I）に対し、ドミナント（V）、サブドミナント（IV）を主要三和音（和声的短音階の場合は、I m・IV m・V）とし、ドミナントはトニックへ戻る（コード機能・音楽が循環する）ために必要なコードとして多くの場合、機能します。

※1) ダイアトニックコード；その調を構成する音のみで構成される和音のことで、一般的なポップスや歌謡曲の場合、それらの和音だけで楽曲が成りたっていることも多い。おもには3音からなる主要な和音に4つめ以上の diatonic（その調の）音を加えると色彩的響きが得られる。たとえば、C 調や Am 調における Cmaj7、Cadd9、C6、Dm7、Em7、Fmaj7、G7 など、

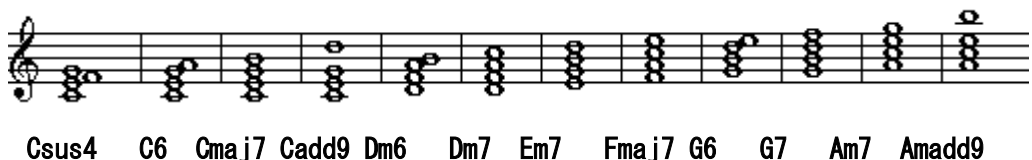
※2) クリシェライン；基本コードは同一で装飾音のみ変化する際、“オリビアを聴きながら”で、疲れ果てたあなた私の～♪、のフレーズ (Am→Ammaj7→Am7→Am6) など

1. C 調（ハ長調）とダイアトニックコード (diatonic chords)



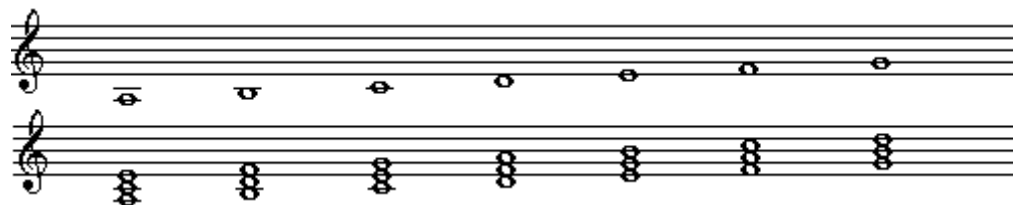
(コードネーム)	C	Dm	Em	F	G	Am	Bm7 ^(♭5) = Bm ⁷⁻⁵
(番号表記)	I	II m	III m	IV	V	VI m	VII m7 ^(♭5) = VII m ⁷⁻⁵

〈参考 ①〉 C 調 & Am 調 で使用するその他の diatonic chords (その調音のみで構成)



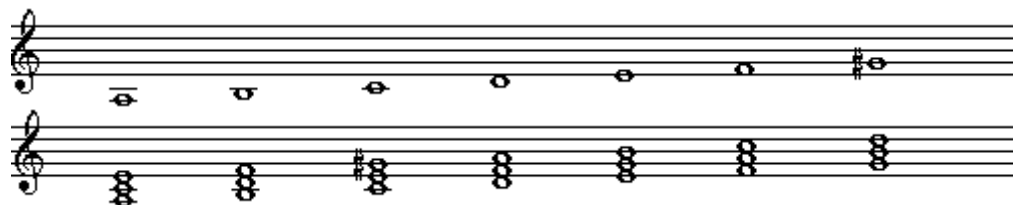
2. Am調（イ短調）とダイアトニックコード（diatonic chords）

2-1. 自然的短音階



(コードネーム)	Am	Bm7 ^(b5)	C	Dm	Em	F	G
(番号表記)	I m	II m7 ^(b5)	III	IVm	Vm	VI	VII

2-2. 和声的短音階



(コードネーム)	Am	Bm7 ^(b5)	C ⁽⁺⁵⁾	Dm	E	F	G#m ^(b5)
(番号表記)	I m	II m7 ^(b5)	III	IVm	V	VI	VII

⇒和声的短音階の場合、CとGにも#ソがつき、それぞれC⁺⁵、G#m^(b5)となりますが、本法では、その2つのコードを使用せず、Eのみを和声的短音階から採用しました。短調系 diatonic (Am) においては、E(7)とEmがドミナント (VorVm) として機能することになります。

〈参考 ②〉 その他の diatonic chords の仲間たち (派生音を含んだ装飾音的使用)



Dmmaj7 E7 Am6 Ammaj7 (フルス・コード) C7 F7 G7

3. 非ダイアトニックコード (non-diatonic chords) ~その和音がC&Am調のものではない



(コードネーム) D(7) Gm(7) B \flat B \flat maj7 Bm(7)

以上に示したコードを使用してコード伴奏を支えていくわけですが、まずはやってみてというところから入ったほうが良いと思われます。複雑なコード理論を理解しようとしたらいつまでたっても活動は始まりません。実際に後に示すコードパターンは、“どこかで聴いた事がある曲”がほとんどですから、基本的なコードに乗せる装飾音は自分の手癖でアレンジされることをお勧めします。ポイントは、知っている歌をコード譜を見ながらコード伴奏のみで歌ってみることだと思います。ピアノだけで音楽を成立させようとするとうりやうと右手にとらわれてコードの流れは読みにくいのかも知れません。